

水草等対策技術開発支援事業実績

採択年度	平成 30, 31, 令和 2 年度	事業者名	国土防災技術株式会社
補助事業名	フルボ酸を利用した水草の堆肥化試験と資源有効活用に向けた仕組みづくり		
補助事業結果概要	<p>【液肥の製品化に向けた準備】</p> <p>① 展示会や広告等を活用して、液肥を全国各地の農家（滋賀県優先）に無料配布を行う。配布した農家に対してヒアリング調査をすることによって、効果や操作性等、製品としての課題を洗い出す。 →展示会において本事業の啓蒙活動や液肥の無料配布を行った。展示会の際は、液肥に「ビワコフルボ」と名前をつけることで琵琶湖に関係のある資材と分かるように啓蒙活動を行った。しかしながら、配布先から十分なアンケート結果を回収できなかった。</p> <p>②肥料登録に必要な書類等の準備を進める。有機 JAS 資材登録については製品として製造工場などの設備が整ってから登録申請を進める。 →液肥、堆肥ともに肥料として販売するには肥料等試験法を実施する必要がある。安全性を確認した上で肥料ではなく、植物活性剤として有機 JAS 資材登録を行い、販売する方向で調整する。</p> <p>【水草残留物の堆肥化試験】</p> <p>③ 水草残留物を堆肥をとして活用できるか、昨年度の減容化試験で残留した水草を使用し、本社試験室にて汚泥コンポストの配合量を分けてラボ試験を実施する。</p> <p>④堆肥化できた水草堆肥を用いて、コマツナ等の生育の速い作物を使用して本社屋上で培地試験を実施する。 →堆肥化試験や培地試験の結果から、フジミン成分入りの水草堆肥については、①水草重量に対して約 60～75%のコンポストを配合して堆肥化を行い、②堆肥化した水草を土壌（農地）に 2.5～5%程度混合することによって、植物の生育を阻害せず、地域の資源を活用した資材として活用できる可能性があることを確認した。</p>		

<p>本年度（令和3年度）の状況 ・技術開発等の状況を含む</p>	<p>【液肥】 令和3年度に引き続き、農地への散布を行っている農家へヒアリング調査を実施。冬野菜では、大きな効果は見受けられなかったが夏野菜では生育速度が向上した等の報告あり。 しかしながら、今後はビワコフルボの使用期限が近いため使用を控えてもらうよう依頼。 新しく製造し直すかは、製造拠点の調整含めて検討中。</p> <p>【堆肥】 液肥と同様の状況</p>
<p>備考</p>	